

## 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年2月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2774001461
法人名	社会福祉法人 柳生会
事業所名	グループホームユフォリア豊中
所在地	豊中市勝部1-12-21 (電話) 06-6844-3550

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年1月25日

## 【情報提供票より】(平成19年12月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	5人
職員数	12人	常勤	8人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.9人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての	2階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

## (4) 利用者の概要 (平成19年12月31日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2		0名	
要介護3	3名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 87.4歳	最低	75歳	最高	92歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊中渡辺病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「日常生活において理不尽な規制によりストレスを誘発するシステムを排除し、利用者の自由意志の尊重と自立を支援する。施設の経営は、自由主義と自己責任に基づく経営の自立を確立する。(要旨)」を新しく理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。医療連携体制により、併設診療所の医師と看護師が必要な医療と看護を提供しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価で示された事項について改善が進み、グループホームのあるべき姿を念頭に入れた新しい理念が作られ、実行しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、統括責任者の素案をもとに職員と話し合いながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は豊中市の職員、地域包括支援センター職員、地域の代表、家族、利用者の参加のもとで開催しています。会議ではホームの活動状況、利用者の生活ぶり等を報告し、地域との交流の深め方やボランティアの受け入れ、認知症の理解を深める方法などについて話し合っています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。グループホームの記事も盛り込んだ法人の季刊新聞「キャッチボール」を発行し家族に送付しています。家族とは面会時だけでなく、定期的なケアプラン作成前にも話し合い、アンケート調査も行って、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また意見箱も設置し、家族の意見が表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は地域の敬老会や文化祭に参加し、秋のたんじり祭りの時にたんじりが法人前の広場に立ち寄ることを楽しみにしています。併設特養の利用者と一緒に地域のボランティアによる音楽療法や陶芸、書道等を楽しんでいます。

## 2. 調 査 報 告 書

(          部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日常生活において理不尽な規制によりストレスを誘発するシステムを排除し、利用者の自由意志の尊重と自立を支援する。施設の経営は、自由主義と自己責任に基づく経営の自立を確立する。(要旨)」を新しく理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示するとともに、職員の名札の裏面にも印刷しています。定例会議や毎日の業務を通じて、理念を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。利用者は職員に見守られながら自由にのびのびと生活しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	利用者は地域の敬老会や文化祭に参加し、秋のたんじり祭りの時にたんじりが法人前の広場に立ち寄ることを楽しみにしています。併設特養の利用者と一緒に地域のボランティアによる音楽療法や陶芸、書道等を楽しんでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について改善が進み、グループホームのあるべき姿を念頭にいった新しい理念が作られ、実行しています。自己評価は、統括責任者の素案をもとに職員と話し合いながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は豊中市の職員、地域包括支援センター職員、地域の代表、家族、利用者の参加のもとで、年2回開催しています。会議ではホームの活動状況、利用者の生活ぶり等を報告し、地域との交流の深め方やボランティアの受け入れ、認知症の理解を深める方法などについて話し合っています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の担当者を通じて豊中市の担当職員と相談をする等、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。グループホームの記事も盛り込んだ法人の季刊新聞「キャッチボール」を発行し家族に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、定期的なケアプラン作成前にも話し合い、アンケート調査も行って、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また意見箱も設置し、家族の意見が表せる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの職員が退職する場合は、同一法人の特養から職員を補充することとし、全く新人の職員をホームに配置しない方針をとっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修への参加や、伝達研修も兼ねた定期的な法人内研修にも参加し、レベルアップを図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、職員は交流会や研修会に参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、職員が施設や家庭を訪問したり、利用者や家族にホームに来訪してもらったりしています。馴染みの関係作りを行い、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居し、サービスを受けられるように取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。利用者とは家事や季節毎の習慣や祭事を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	MDS方式を使って、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握ができています。居室で日記を毎日かかさず付け、毎日訪れる家族に見せながら対話をしている利用者や自身のケアプランを居室の壁に貼り、生活や活動の目標を意識している利用者がいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	MDS方式によるアセスメント情報や利用者の現在の暮らし、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を聞き、利用者や家族の意向・願いを反映した介護計画を作成しています		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。パソコンに入力された職員によるモニタリング結果を集約し、家族の意向を聞き、利用者本人も参加するケアカンファレンスを行ってケアプランの見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設診療所の医師、看護師との連携により必要な医療と看護を受けています。また併設特養の大浴場を利用し、同じフロアの特養利用者とともに夕食やレクリエーションを楽しんでいます。地域のボランティアが来訪し、各種楽しみごとを提供してもらっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所から医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前の、かかりつけ医療機関から引き続き医療を受けています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象となる利用者はいませんが、入居時にホームで看取りを行うことを家族に伝え、意向の確認も終えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝と昼は併設特養から調理済みの食材を利用し、ホームでもお味噌汁などを作っています。食事準備、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で参加し楽しんでいます。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。週に2回の昼食は、買い物から調理まで利用者も参加し、好きな料理を作っています。夕食は同じフロア内にある特養やショートステイ利用者と食堂での会食を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に2回、特養の大浴場でゆっくり寛いだ入浴をしています。風呂に入らない日は足浴を楽しむ利用者もいます。	○	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。家事をする時リーダー役をする利用者、炒め物は必ず引き受ける利用者がいます。また特養での音楽、書道、陶芸教室に通う利用者等の支援もしています。家族も参加する納涼祭やクリスマス会も大きな楽しみとなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回は食材や日用品の買い物に行ったり、見晴らしがとても良い特養の屋上に上がったり、広い特養の廊下を歩いて友人と会話をしたりして気晴らしをしています。季節の花見にも出かけ、特養との合同外出行事にも参加しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアードア、玄関のドアは日中開放されており、職員の見守りで対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として年2回の避難訓練を実施しています。非常・災害時のための食料品と水の備蓄については、法人として対応し備蓄されています。今後は、ホーム内でも水や非常食を備蓄することが期待されます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と水分摂取量を把握しパソコンに記録しています。栄養バランスについては、法人特養の管理栄養士よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定員5人のホームに相応しい広さのリビング兼ダイニングルームは、南側に大きな窓がありサンルームの様に大変明るく、機能的に家具調度品が配置されています。雑誌やレクリエーション道具も置かれ、家庭的で落ち着きを感じさせる共用空間になっています。今後はより季節感が感じ取れる空間を創っていくことが望まれます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームが用意しているベッド、整理棚、机と椅子以外に、利用者は整理ダンス、洋服掛け、収納ケース、籐の椅子、位牌と遺影、家族の写真、目覚まし時計、国語辞典等使い慣れた懐かしく、馴染みのある物を持ち込んでいます。犬を飼ったり、観葉植物を育てたり、お菓子を買い置きしたり、届いた年賀状を壁に貼ったりしている方など、個性的な自由で安心した生活が送れる空間になっています。		